

28 年の間アジア・太平洋地区の国際大会を引っ張ってきた APOC がその幕を下ろす。

APOC からアジア選手権へ

1980 年にオーストラリアで始まった環太平洋オリエンテリングカーニバル(選手権)(APOC)は、その後環太平洋アジア選手権と名前を変え、まだ発展途上であったアジア諸国からも多くのオリエンティアを集めるイベントに成長した。

そして、2008 年、韓国における APOC ミーティングでその 28 年間 15 回にわたる幕を閉じた。最後の 3 回はカザフスタン、香港、韓国とアジア諸国が続くとともに、北米、オーストラリアやニュージーランドからの参加者も数えるほどになっていた。同時にアジア地区の新しい大会としてアジア選手権が生まれた今、その役割は終わった。そう判断されたのだ。

この会議の席上で、カザフスタンの代表ウラジミールは APOC 終了の提案に対して「残念なことだ」と感想を表明した。このアジア地区で長くオリエンテリングを続けている者なら誰もが共通の感情を持ったであろう。初めての本格的な国際大会として緊張と組織の対立の中で行なわれつつも、私たちに世界のトップエリートと近しくつきあう機会を与えてくれた 82 年の POC、技術的にも大会運営面でも十分な自信をつけ、バブル景気の波にも乗って当時の中堅世代が活躍した 92 年の APOC。オーストラリアや香港の大会に大挙してでかけたことも何度もあった。日本人にとっても、APOC はもっとも気軽に楽しめる国際大会だった。

APOC のアイデアは、オーストラリアのデービッド・ホッグ氏によって考え出され、また発展させられた。当時はマスターズもなければ、ワールドカップも無かった。ヨーロッパ中心のスポーツであるオリエンテリングを「地球の裏側」で普及するためには、(A)POC はなくてはならないステージであった。実際、APOC は日本の大会を国際水準に導くトリガーとして働き、また日本人オリエンティアにとって海外でのレースを身近なものに感じさせてくれる上で大きな役割を果たした。それは、香港その他のアジア諸国について



今回の APOC 時に開催された APOC ミーティング。この会議で、APOC を今後続けないという歴史的決断がなされた。

も同じだろう。その意味で、ホッグ氏のアイデアは大きく実を結んだ。

そのホッグ氏も高齢と病気がちなのを理由に APOC の事務局を降り、事務局が香港の手に委ねられたのが前回 2006 年の APOC であった。そして折しも IOF の下での地域選手権の開催が現実へと動きだしつつあった。今回韓国の大会では APOC 兼 AsOC(アジア選手権)の開催となった。初めての本格的国際大会という重圧にもかかわらず、韓国は立派にその使命を果たし、AsOC をスタートさせた。

APOC ミーティングの時、オーストラリアの代表が、「もし、アジア選手権一本になることがアジア外の愛好者を排斥することを意味しないなら、私たちは APOC 終了の提案に賛成する。表彰台に上がれなくても、私たちは海外を旅し、仲間たちと再会することを楽しみにしているのだから」とコメントした。その意見の通り、今回のアジア選手権には、APOC にあったような全てのクラスの参加者がともに楽しめる雰囲気引き継がれていた。このようなコンセプトは、元々 IOF が目指す地域選手権の考え方と完全に一致しているわけではない。しかし、いまだ発展途中にある

アジアにはそれにふさわしい国際大会の枠組みが必要であろう。エリートが真剣に競い合うとともに、また若者やシニアたちが交流する、そんな場が地域の発展には必要だ。

今回始まったアジア選手権は、次回 2010 年は日本に引き継がれる。アジアのリーダーとしてこの大会をさらに発展させ、育てていくことは私たち日本のオリエンティアに課された使命であり、そこにはこれまで味わったことのないような楽しみ、ハプニング、充実感がある。

ウラジミールは、今回のバンケットの各国代表の挨拶の中で「21 世紀はアジアの時代だ！」と拳を上げた。APOC の終焉。それは終わりであるとともに、新しいアジアの時代の幕開けでもある。

(村越 真)